

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 11 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104898		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ 高陽①		
所在地	〒739-1732 広島市安佐北区落合南七丁目10番20号 (電話) (082) 841-5670		
自己評価作成日	平成22年11月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104898&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104898&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年12月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で一日一日を穏やかに過ごしてもらえるように入居者一人一人の生活を大切に にする
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当法人(株)ひょうまは島根県に本部を置き、事業の一部である介護事業部は、島根県と広島県を中心に、数多くのグループホームを運営している。広島地区4番目の事業所として、木造平屋建てでリビングも広く、ウッドデッキも備えた理想的な事業所として開設され6年目を迎えている。その間「家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりの生活を大切に・・・」を念頭に、地域住民の方に支援される事業所を目指し努力されている。また入居者の方々に出来ることは自分で・・・をモットーに、食事の調理・盛りつけ・かたづけのお手伝いや、洗濯物の片付けなど職員と一緒に楽しそうに行い、入居者の方の表情も良い。開設5年目に前ホーム長が広島地区の責任者に転出し、新ホーム長が就任されたが、広島地区責任者による全施設の横断的な指導の基で、ホーム長と職員とのチームワークも良く、入居者の方々の意向を掴み楽しく日々が暮らせ、ご家族からも信頼される事業所の構築が今後も期待されている。
--

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げ、入居者の意向、その人らしい生活に近づけるように日々、努力している	事業本部の掲げる5項目の基本理念を基に、事業所の実践目標が掲げられている。職員の方々もその実践に取り組まれているが、やや実践目標が抽象的である。今後はより具体的な実践目標を設定され、事務所・スタッフルームに目標を明確に掲げ、その達成に向け全職員も個人目標を定め、日々のミーティングや月1回の職員会議等を通じ、理念達成のため意識の高揚と持続を求められると共に、その理念を共有され、実践につなげられる事を期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などでの情報交換しており、地域の祭りや行事の案内は受け参加しているが、日常的な交流は薄い	自治会にも加入され、地域のお祭りや公民館祭りなどの行事には参加されているが、全般に地域との繋がりがやや弱い感じがあります。今後、町内会長・老人会・女性会などあらゆる手段を用い、ホーム長自ら訪問し、各関係者との友好関係の深交努力を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域、近隣との交流は薄く、発信できていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員、地域包括、市役所の方より、他事業者の状況やその他の意見を聞き活かしている	運営推進会議は定期的に行われている。また行政担当者や民生委員の方々の出席もあるが、地域住民の代表・ご家族の出席がありません。今後幅広い関係者の出席の下で、双方向の意見交換のある運営推進会議の開催を期待します。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の時には入退居状況をお伝えし、幅広い受入れを目指す取り組みはしている	行政関係の担当者の運営推進会議への出席もあり、日頃から連携も出来ており、行政担当者からの情報の提供やアドバイス等、協力関係が築かれている。	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	拘束は行わないように、鍵の施錠は可能な範囲の時間、外している	身体拘束・虐待防止の徹底などについて、事業グループ内研修や外部研修に参加するなど、全職員禁止の対象となる具体的な行為は正しく理解している。日々ホーム長以下全職員、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	毎月1回職員会議を行っているが、年間を通じてその会議の中で高齢者虐待について学ぶ機会を作っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	現時点では成年後見人制度について学ぶ機会が作れていないが、今後はその機会を作りたいと考えている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	充分に行っており、後で苦情等は受けていない		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	契約時にご意見、ご要望、苦情などの窓口の設定状況など説明を行っている	毎年2月に家族アンケートを実施され、ご家族からの意見・要望・苦情などを把握され、また日々面会にこられるご家族へ、入居者の方の現状の報告と合せ、意見・要望を聞きだし、運営に反映されている。	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議の際に会社への要望、業務への要望も聞いている	広島地区担当責任者や、ホーム長と全職員とのコミュニケーションは大変良く、日々の会話を通じた意見の吸収や、月1回の定例会議に、広島地区担当責任者も出席され、職員の意見や提案も聞かれ、職員の意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている 職員の資格取得を支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行うよう指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換、勉強会等へ参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、本人へも可能であれば意向を聞き可能な範囲、プランへ反映するようにしている		

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、家族へも状況の説明、要望を聞き可能な範囲、反映させるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前調査により、どのような経過でホームへ入居になったか、どのように対応して欲しいかを伺っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活行為（掃除、洗濯、調理）などなるべく一緒に行えるよう働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出や通院など家族の負担、対応が可能な部分についてはお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族より多人数でホームへ訪問しても良いかなど問合せなどあるが、本人にとってなじみの関係維持のため、了解している	馴染みの人や場との関係継続の支援は、大変難しいものがある。事業所としてご家族の支援協力の下で、お寺参り・お墓参りなど可能な限り支援をされている。	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の個性が強く、全てにおいて支えあう関係とはいかないが可能な利用者には一緒に作業を行うなどかわりを持ってもらっている		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居の際には何かあれば相談に応じますとお伝えしている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事や入浴時間など、日々の訴えを可能な範囲で反映している、困難な場合も本人にとっての視点で検討するようにしている	事業所開設後6年、やや入居者全般の身体能力が低下してきているが、まだ入居者個々で意思表示出来る方が多い、日頃の繋がりの中で意向の把握に努め、ケアに反映されている。また重度者の方からは、日々の表情や目の動き等、細やかな気配りの中で意向を把握され、ケアに生かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前調査の情報、その他、日々の関りから知り得た情報は会議の際に共有している		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	比較的、長期間、入居されている方が多く、日々の過ごし方、できる事、援助を要することの把握はできている		

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画見直し、変更時は担当職員による意見を計画作成担当者が修正し、家族へプランを説明し同意を得ている。</p>	<p>基本的には、3ヶ月・6ヶ月の計画をたて、入居者の状況変化に応じ見直しを行っている。計画作成に当たっては、日々の様子を記した個別記録を基に、担当職員・計画担当・ホーム長で現状に即した介護計画の作成をされている。またご家族には来訪時に説明、遠方の方に対しては電話・FAXにて意見交換され、家族からの意見・要望を支援に反映されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子については個別記録、申し送りへ記載し、対応など共有できるようにしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>訪問マッサージ、歯科などの他のサービスは導入している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の把握はできていない</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力内科、歯科と都度、相談しながら随時、対応している</p>	<p>入居時に、ご家族と話し合いの上で主治医を定めている。現在、全入居者の方が同じ主治医の下で、健康管理と往診治療を受けられている。内科医・歯科医による往診が2週間に1回、その間看護職員による対応が週2日行われる等、適切な健康管理と医療を受けられる支援がなされている。</p>	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2回の看護師の出勤の際に各ユニットの入居者の状態、対応について相談するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には予定期間より早めの退院ができそうであれば、なるべく早期の復帰をしてもらっている。その為に病院関係者との連絡、打ち合わせも行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時の説明と都度、状態の変化があった際にDrと相談しながら今後の方針を家族と一緒に考えるようにしている	入居契約時に、「医療的な対応・看取りに対する指針」を説明されている。事業所としては、基本的に看取りは行わない方針である。また開設以来看取りの実績は無い。しかしご家族からの要望に従って、医師・看護師・ご家族・事業所等、全ての要件が満たさチームとして支援できる体制が確立されれば、ご家族と一緒に考え、支援される事を検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習会は来春行う予定、また、急変があった際は会議の際や業務の間に看護師より注意事項、観察ポイントなど指導を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年間2回避難訓練を実施している。また近隣との合同避難訓練の実施も過去行ったが、今後もより多くの方に参加いただけるよう取り組んでいきたい。	年2回定期的な避難防災訓練を実施されている。また平成23年3月末を目処に、スプリンクラーの設置を行う等防災意識は高い。今後更に入居者の方の安心安全・快適な暮らしを支えるためには、地域の方々の協力支援が必要です。運営推進会議を通じ、町内会長を核に地域住民の方々の協力支援が頂けるよう、夜間における避難体制の確立と、夜間の避難マニュアルの作成を望みます。	



ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩へ接する気持ちで対応するよう心がけている	事業グループ内研修や外部研修を通じ、全職員の入居者に対する、人格の尊重とプライバシーの確保に対する意識は高い。特に入浴時や排泄時に、入居者の尊厳を傷つけないよう、言葉づかい等十分配慮した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の訴えや希望を可能な範囲で対応で知るよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩や食事など可能な範囲で対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットや髪染めなどご本人や家族からの意向を聞き、反映している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の生活の中でヒアリングできたご本人の希望や要望を誕生日などでかなえるよう配慮し、下膳、盛り付けなど可能な方にはしてもらっている	献立は、入居者の方々の希望を取り入れ職員で作成されている。食材調達は可能な限り入居者と同行し、調理は出来ることは職員と一緒に、食事は職員と入居者は同じ物を一緒に、また職員は入居者の食事介助に気を配りながら食している。全員での外食支援は、入居者の介護レベルがアップし困難になったが、季節の良いときには、ウッドデッキを活用し、そうめん流しやバーベキュー等を楽しんでいる。	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	主食、副食の量や水分量など、状態、本人の訴えを聞きながら対応している		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本的に毎食後実施している		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	随時、定時の排泄誘導を前後の排泄状態を考慮しながら行っている	排泄については、排泄パターンを記録し、入居者の習慣を掴み、早めにトイレへの誘導を行う等、排泄の自立支援に努力されている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には毎食後、ヨーグルトを提供し服薬だけに頼らないようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に2日1回の入浴としているが、タイミングや時間の希望に関しては可能な範囲、対応している	午前中にバイタルチェック行い、基本的に2日に1回の入浴支援となっているが、入居者の希望に添った入浴支援が出来ている。また便失禁時はシャワー浴、もしくは入浴を行い、常に清潔保持に努められている。	

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中に活動性を高め、なるべく 夜の安眠を促すようにしている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬状況がわかるようファイル に閉じスタッフがみれるように している、また、服薬の変更、 その後の状態の変化の観察を 申し送りにて伝え往診の際に Drへ伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	生活に必要な援助以外は自由 に過ごしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	体制的にその日に対応できない ことが多いが、会議の際検討し 実現可能であれば対応してい る、また、家族へも希望があ れば面会の際にお伝えしてい る	シーズ的な歳時外出（お花見・ ドライブ等）は行われている。 日常的な外出支援がやや少な い感じです、季候の良いとき には事業所近隣の散策や、自 慢のウッドデッキを活用され 、日光浴の実施や裏庭の花壇 ・菜園を、入居者と一緒に作 る等、1日に必ず短時間でも 外気に接する努力を期待しま す。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。	基本的には持っていないが、 金銭に対しての思いが強い方 は一時的に家族より財布を預 かり、職員と共に管理して 安心してもらえるように対応 している		

ひなたぼっこ・高陽①

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から連絡あれば、利用者の方と変わってお話をしてもらえるよう配慮している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁画や飾りなど季節によって変化させている。またその他の環境面においてはごちゃごちゃとしないようシンプルにわかりやすくしている	各ユニットのリビングは、広く朝日が差し込み、ゆったりと過ごせるよう配慮され、特に畳み敷きの和室には、大きめのソファを配置し、入居者が伸び伸びと暮らせるようにしている。加湿器も11月から置かれ、健康管理にも気を配られている。壁面には入居者の手作りのクリスマスツリーも飾られ、生活感や季節感を取り入れる等工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自分の席やソファなど各自、一人で過ごせる場所は確保できている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的には持ち込みの制限はなく自由に使ってもらっている	各居室には、ベッドは配置されているが、それ以外は入居者が今まで使用されていた品々を持ち込まれ、ご家族や職員と一緒に楽しく過ごせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	風呂場など改善点はあるも、少しずつ改善して言っている		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げ、入居者の意向、その人らしい生活に近づけるように日々、努力している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などでの情報交換しており、地域の祭りや行事の案内は受け参加しているが、日常的な交流は薄い		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域、近隣との交流は薄く、発信できていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員、地域包括、市役所の方より、他事業者の状況やその他の意見を聞き活かしている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の時には入退居状況をお伝えし、幅広い受入れを目指す取組みはしている		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	拘束は行わないように、鍵の施錠は可能な範囲の時間、外している		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	毎月1回の職員会議の際、勉強する機会を作り研修を行っている		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	現在成年後見人制度についての学ぶ機会を作っていないが、今後は外部の研修へ参加するなどの計画も含め、検討したい。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	充分に行っており、苦情は受けていない		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	契約時にご意見、ご要望、苦情などの窓口の設定状況など説明を行っている		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議の際や日常での会話の中から会社への要望、業務への要望も聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている 職員の資格取得を支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行うよう指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換、勉強会等へ参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、本人へも可能であれば意向を聞き可能な範囲、プランへ反映している		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、家族へも状況の説明、要望を聞き可能な範囲、反映している		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前調査により、どのような経過でホームへ入居になったか、また入居後はどのような対応をご希望されるのかを伺うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活行為（掃除、洗濯、調理）などなるべく一緒に行えるよう働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出や通院など家族の負担、対応が可能な部分についてはお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族より多人数でホームへ訪問しても良いかなど問合せなどあるが、本人にとってなじみの関係維持のため、了解している。また旧友の方との再会も以前にはあった		



ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	比較的、入居者同士の交流、かかわりは維持できている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居の際には何かあれば相談に応じますとお伝えしている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事や入浴時間など、日々の訴えを可能な範囲で反映している、困難な場合も本人にとっての視点で検討するようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前調査の情報、その他、日々の関りから知り得た情報は会議の際に共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活の中でできることは把握できている		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画見直し、変更時は担当職員による意見を計画作成担当者が修正し、家族へプランを説明し同意を得ている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子については個別記録、申し送りへ記載し、対応を統一できるような情報を共有している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>訪問マッサージ、歯科などの他のサービスは導入している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の把握はできていない</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力内科、歯科と都度、相談しながら随時、対応している</p>		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2回の看護師の出勤の際に各ユニットの入居者の状態、対応について相談するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には予定期間より早めの退院ができそうであれば、なるべく早期の復帰をしてもらっている。その為に病院関係者との連絡、打ち合わせも行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時の説明と都度、状態の変化があった際にDrと相談しながら今後の方針を家族と一緒に考えるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習会は来年度行う予定、また、急変があった際は会議の際や業務の間に看護師より注意事項、観察ポイントなど指導を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。また近隣住民との合同避難訓練の実施も行ったこともあるが、今後もっと多くの方に参加していただけるよう働きかけていきたい		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩へ接する気持ちで対応するよう心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の訴えや希望を可能な範囲で対応できるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の思いを訴えることができる方は言われたことはすぐではないが可能な範囲、対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットや髪染めなど以前からのご本人や家族の意向を反映している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日に食べたいと希望があり対応できればそのようにしたり、準備、片付けも一緒に行っている。		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>主食、副食の量や水分量など、状態、本人の訴えを聞いたり、様子を見たりしながら対応している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>基本的には毎食後実施している</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>随時、定時の排泄誘導を前後の排泄状態を考慮しながら行っている</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>朝食後の寒天、夕食時にはヨーグルトを提供し下剤だけではなく生活でできることは工夫している</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本18：00までには入浴を終了しているが，その間で時間、タイミングについては配慮している。また、予定外での入浴の希望あれば可能な範囲対応している</p>		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	様子をみながら臥床、離床をし てもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬状況がわかるようファイル に閉じスタッフがみれるように している、また、服薬の変更、 その後の状態の変化の観察を 申し送りにて伝え往診の際に Drへ伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	生活に必要な援助以外は自由 に過ごしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	体制的にその日に対応できない ことが多いが、会議の際検討し 実現可能であれば対応してい る、また、家族へも希望があ れば面会の際にお伝えしてい る		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	基本的には持っていないが、 金銭に対しての思いが強い方 や家族の希望があれば小銭程 度は持ってもらっている。		

ひなたぼっこ・高陽②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族への連絡はしてもらっている、友人との文通などもされていた		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁画や季節の飾りなど環境を変化させている。またその他の環境面等もシンプルにわかりやすくしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自分の席やソファなど各自、一人で過ごせる場所は確保できている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的には持ち込みの制限はなく自由に使ってもらっている		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	福祉用具など今後、自立支援に向け必要なものは用意したい		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・高陽

作成日 平成 23 年 1 月 13 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活成化	会議を通じ、地域とのつながりを強める	地域住民、入居者、家族への参加を即し、ホームの現状を理解していただくことから始める	12ヶ月
2	26	ケアプラン作成時のカンファレンスの実施	家族との面談の機会を増やし、ホームと家族で協力しながら、ケアを行う	ケアプラン作事には、ホームスタッフ、家族、入居者を交え、ケアプランを作成していく	12ヶ月
3	13	外部、内部研修の強化	研修を計画的に実施し、職員全体のスキルアップを図る	年間での内部研修計画の作成、実施、外部研修への積極的参加	12ヶ月
4	35	災害時の地域協力体制の確立	地域住民との災害時の協力体制が作れる	年2回の避難訓練時、地域住民の参加を促し、協力体制を作っていく	12ヶ月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。